◆◇◆◇◆　第 3 章　教養総合科目　◆◇◆◇◆

Ⅰ. 教養総合科目の目的

現代世界は、グローバル化の進展という均質化を指向する世界と、一方で文化の多様化・複雑化を指向する世界とが重なって存在している。このような世界で、人として生きていくための知識と技能を身につけ、豊かな人間性を養うため、本学は教養総合科目を開設している。ここでは学問の基本的な知識を獲得するだけに留まらず、様々な場面に応じた知識の活用能力や自己表現能力を高め、多様な視点から物事をとらえていく姿勢を培うことを目指している。このことは本学の理念・目的である、世界に開かれた日本文化の創造と形成に総合的に寄与し、日本文化を世界に発信できる有用な人材を、育成することを可能にするものである。これらを達成するため、教養総合科目では導入基礎演習科目からなる「導入科目」、神道科目、言語科目、スポーツ・身体文化科目からなる「基礎科目群」、テーマ別講義科目、総合講座、総合演習、キャリアデザイン科目からなる「人間総合科目群」、コンピュータ技術演習の「情報処理科目群」及び発展言語科目、発展スポーツ・身体文化科目、留学等による単位認定からなる「応用科目群」が設定されている。

Ⅱ. 教養総合科目の構成と履修方法

教養総合科目の構成

科目				必修単位	履修方法
教養総合科目	基礎科目群	神道科目		2	1 科目 2 単位以上必修（神道文化学部は選択）
		言語科目	必修外国語	8	英語（中国文学科は中国語）
			選択必修外国語	2	日本文学科は、ドイツ・フランス・中国・コリア語の中から 1 外国語を選択 史学科は、ドイツ・フランス・中国・コリア・ロシア語の中から 1 外国語を選択
				8	外国語文化学科は、ドイツ・フランス・中国語の中から 1 外国語を選択
				6	哲学科は、ドイツ・フランス・中国語の中から 1 外国語を選択
			選択外国語		選択
			基礎日本語		選択
		スポーツ・身体文化科目		2	必修（法学部・経済学部は選択）
	人間総合科目群	テーマ別講義科目		8	4 科目 8 単位以上必修
		総合講座科目			選択
		総合演習科目			選択
		キャリアデザイン科目			選択
	情報処理科目群	コンピュータ技術演習科目			選択
	応用科目群	発展言語科目			選択
		発展スポーツ・身体文化科目			選択
		単位互換・留学等による単位認定			単位互換・留学等による単位認定は 12 単位を上限とする
	合計			36 以上	

Ⅲ. 教養総合科目の具体的内容と履修上の注意

1. 基　礎　科　目　群

基礎科目群は、日本文化の根底にある神道を理解する神道科目、人間を人間たらしめている言語を習得する言語科目、自分自身のからだの理解とスポーツ技能を高めるスポーツ・身体文化科目から構成されている。この科目群は学部・学科に関係なく、國學院大學で学んでいく学生にとって最も基本となる科目群である。

(1) 神　　道　　科　　目

半期 2 単位（文学部・法学部・経済学部は必修、神道文化学部は選択）

國學院大學の建学の精神に触れ、日本固有の文化や国柄あるいは根底にある神道を理解し、さらには現代社会の解明や大学での個々の学修に臨む基礎を身につけることを目的としている。

必修科目の「神道と文化」は、1 年次から 4 年次の間に半期 2 単位を必ず修得しなければならない（神道文化学部は履修不可）。なお、開講されている何れの曜時でも自由に受講できるが、2 単位を超えて修得することはできない。

選択科目の「神道と生活」、「神道と現代社会」に配置された講義題目（詳細は時間割表参照）は各自が自由に選択して修得することができ、教養総合科目の卒業要件単位 36 単位以上のうちに算入することができる（神道文化学部は選択であるが、卒業要件単位に算入できるのは、2 講義題目 4 単位までとする）。

注）　選択科目の「神道と生活○○○」「神道と現代社会○○○」に配置されている講義科目で「○○○」の数字が異なれば同じ「神道と生活」「神道と現代社会」でも「異なる科目」として受講することができる

(2) 言　　語　　科　　目（8～16 単位必修）

人間にとって必須のコミュニケーションツールである言語を、日本語以外の言語を習得することで、海外における情報収集能力と、海外へ向けての情報発信能力を高め、同時に、私たちを取り巻く世界と日本とを客観的に観察する視点の獲得を目的としている。

「必修外国語」と「選択必修外国語」の二種類があり、学部学科の指定により必修単位が異なるため、下記に従い受講すること。なお、外国語科目はすべて半期 1 単位で開講される。

①必修外国語
（全学部・全学科対象）

1)　全学部全学科の学生が 1、2 年次に配置された英語（中国文学科生は中国語）を受講しなければならない。（各科目・半期・1 単位）

注 1)　各科目の履修方法については下の「必修外国語の履修図」を参照すること。
注 2)　中国文学科生については、英語は選択科目となる。ただし、教職課程受講者は別途英語が必修科目となるので注意すること。(P72「③選択外国語の 5)」参照)
注 3)　外国人留学生については、「外国人留学生の外国語科目の履修について」に別途定める。
注 4)　必修外国語は、文学部・経済学部においては 4 単位、神道文化学部においては 2 単位以上修得していることが 2 年次から 3 年次への進級条件の 1 つになっているので注意すること。

2)　卒業要件単位は **8 科目 8 単位**、科目名、配当学年は以下のとおりとする。

学　年	学 部 ・ 学 科	授業科目名	受講時期・科目数
1 年次	全　学　部（中国文学科除く）	First Year English Ⅰ	前期・1
		First Year English Ⅱ	後期・1
		English Ⅰ (R&W)/(L&W)	前期・1 後期・1

学　年	学部・学科	授業科目名		受講時期・科目数
1 年次	中国文学科	中国語基礎ＡⅠ		前期・1
		中国語基礎ＡⅡ		後期・1
		中国語基礎ＢⅠ		前期・1
		中国語基礎ＢⅡ		後期・1
2 年次	文学部（中国文学科除く）	EnglishⅡ(R&W)/(L&W)/(S&W)		前期・2 後期・2
	中国文学科	中国語中級ＡⅠ		前期・1
		中国語中級ＡⅡ		後期・1
		中国語中級ＢⅠ		前期・1
		中国語中級ＢⅡ		後期・1
	法学部 経済学部 神道文化学部	共通	EnglishⅡ(R&W)/(L&W)/(S&W)	前期・1 後期・1
		法学部	EnglishⅡ(時事英語Ⅰ)	前期・1
			EnglishⅡ(時事英語Ⅱ)	後期・1
		経済学部	EnglishⅡ(Business EnglishⅠ)	前期・1
			EnglishⅡ(Business EnglishⅡ)	後期・1
		神道文化学部	EnglishⅡ(神道英語Ⅰ)	前期・1
			EnglishⅡ(神道英語Ⅱ)	後期・1
合　計	全学部全学科８科目８単位			

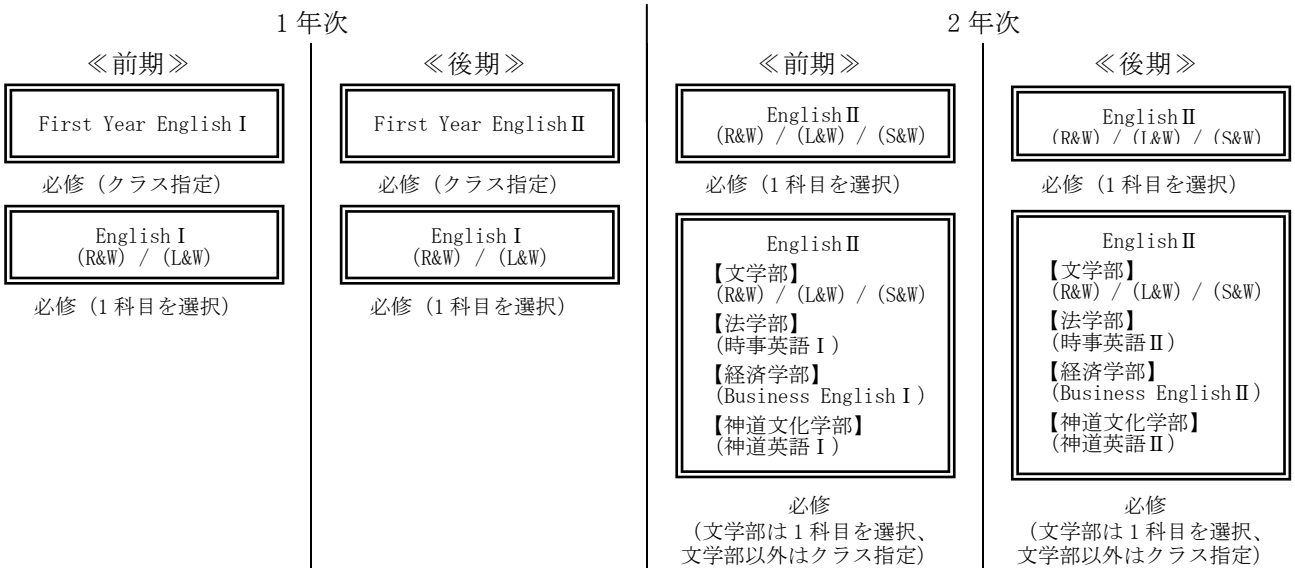
3)EnglishⅠ・Ⅱの略称が示す内容は以下のとおり。各自の希望により選択し受講する。

授業科目名	内　容
EnglishⅠ・Ⅱ (R&W)	Reading & Writing
EnglishⅠ・Ⅱ (L&W)	Listening & Writing
EnglishⅡ (S&W)	Speaking & Writing

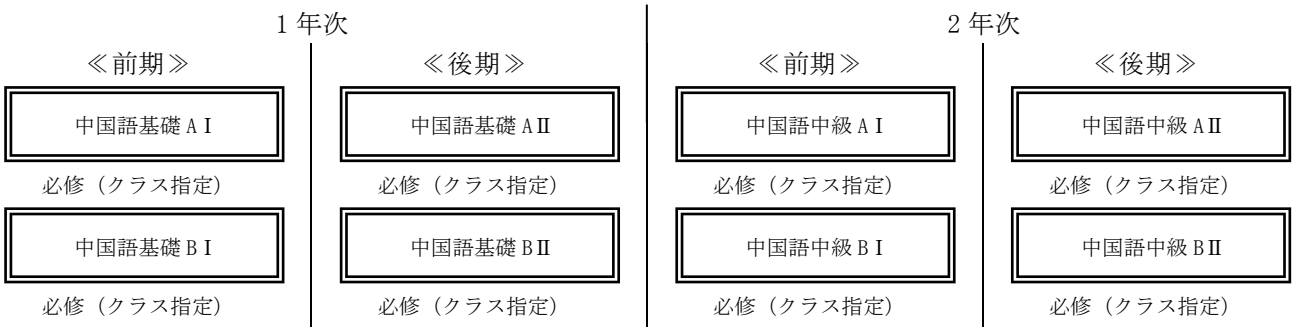
注）卒業要件単位数まで、同じ科目を複数受講することができる。

◆必修外国語の履修図　＊全学部全学科対象

【全学部・全学科（中国文学科を除く）】



【中国文学科】



②選択必修外国語
※日本文学科・外国語文化学科・史学科・哲学科のみ対象

1) 日本文・外国語文化・史・哲学科の学生は、英語以外に、入学時に各自が選択した1外国語を、受講しなければならない。（各科目・半期・1単位）

注1) 日本文・外国語文化・史学科では入学時に各自が選択した外国語を変更することはできない。

注2) 履修科目、方法については次ページの「必修外国語の履修図」を参照すること。

2) 卒業要件単位、科目名、配当学年は以下のとおりとする。

【日本文学科】

〔ﾄﾞｲﾂ語・ﾌﾗﾝｽ語・中国語・ｺﾘｱ語〕のうちから1外国語を**2科目2単位**必修とする。

【外国語文化学科】

〔ﾄﾞｲﾂ語・ﾌﾗﾝｽ語・中国語〕のうちから1外国語を**8科目8単位**必修とする。

【史学科】

〔ﾄﾞｲﾂ語・ﾌﾗﾝｽ語・中国語・ｺﾘｱ語・ﾛｼｱ語〕のうちから1外国語を**2科目2単位**必修とする。

【哲学科】

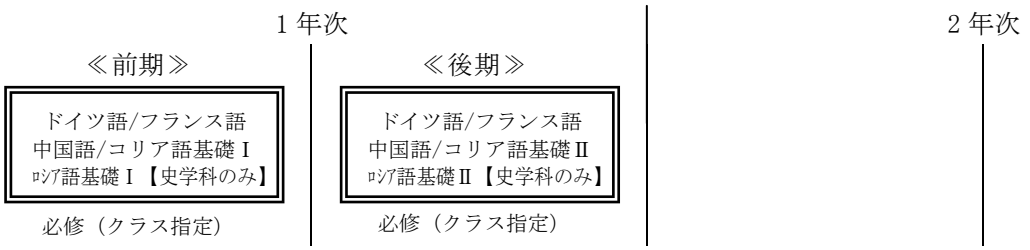
〔ﾄﾞｲﾂ語・ﾌﾗﾝｽ語・中国語〕のうちから1外国語を**6科目6単位**必修とする。

※外国語の変更を希望する場合は、原則として2年次前期履修登録時に必ず哲学科教務委員の了承を得た上で、教務課にて手続きをすること（了承された場合、1年次に履修すべき基礎の各科目を改めて履修し直すことになる）。

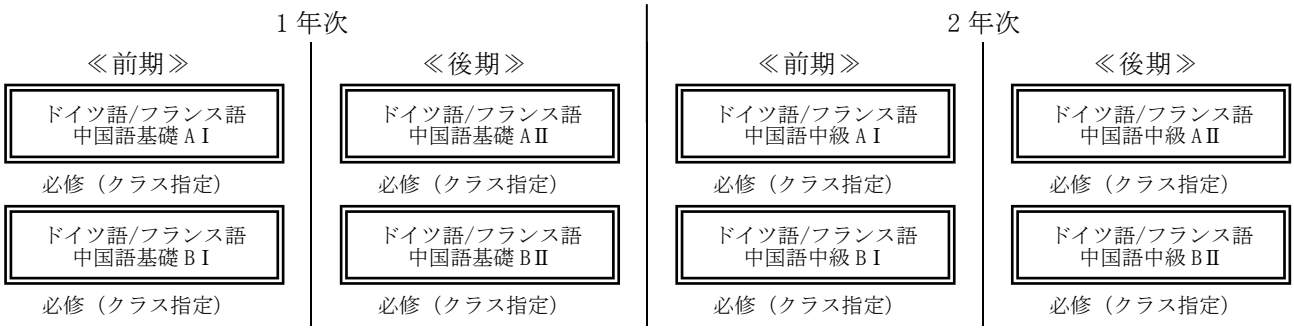
学年	学科	授業科目名	受講時期･科目数
1年次	日本文学科	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語基礎Ⅰ	前期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語基礎Ⅱ	後期・1
	外国語文化学科 哲学科	ドイツ語/フランス語/中国語基礎AⅠ	前期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語基礎AⅡ	後期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語基礎BⅠ	前期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語基礎BⅡ	後期・1
	史学科	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語/ロシア語基礎Ⅰ	前期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語/ロシア語基礎Ⅱ	後期・1
2年次	外国語文化学科	ドイツ語/フランス語/中国語中級AⅠ	前期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語中級AⅡ	後期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語中級BⅠ	前期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語中級BⅡ	後期・1
	哲学科	ドイツ語/フランス語/中国語中級AⅠ	前期・1
		ドイツ語/フランス語/中国語中級AⅡ	後期・1
合計	日本文・史学科2科目2単位／外国語文化学科8科目8単位／哲学科6科目6単位		

◆選択必修外国語の履修図　＊日本文学科・外国語文化・史・哲学科対象

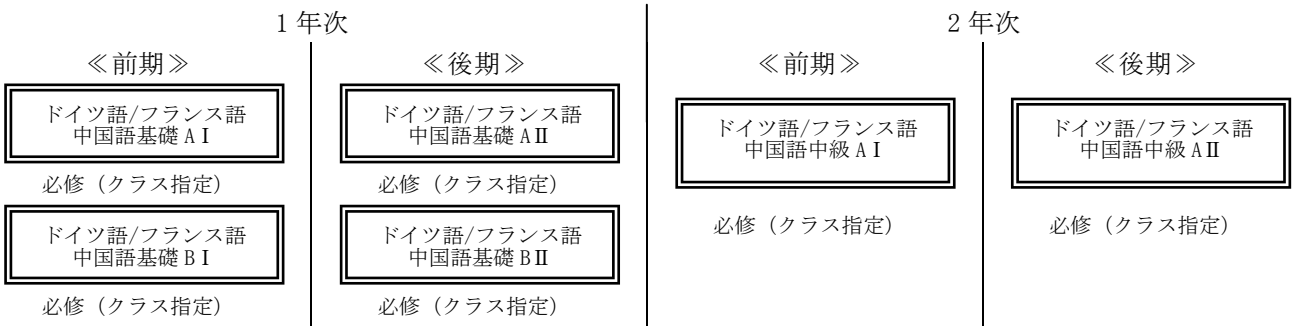
【日本文・史学科】



【外国語文化学科】



【哲学科】



③選択外国語

1)　〔ﾄﾞｲﾂ語・ﾌﾗﾝｽ語・中国語・ｺﾘｱ語・英語〕のうちより、各自が自由に選択して受講できる。（各科目・半期・１単位）
科目名とレベルは以下のとおりとする。

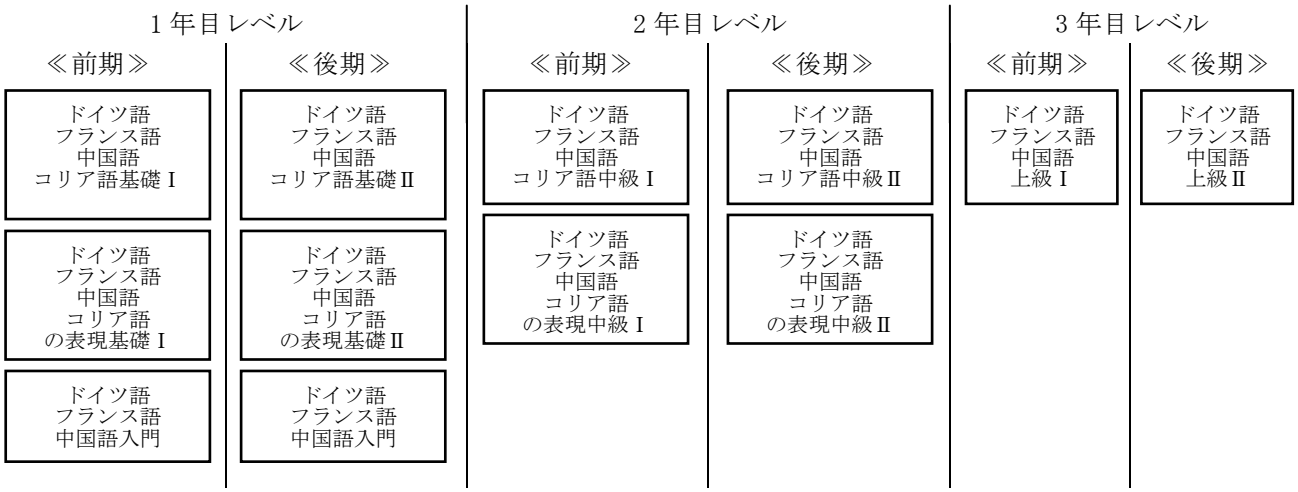
レベル	授業科目名	開講時期
1年目レベル	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語基礎Ⅰ	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語基礎Ⅱ	後期
	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語の表現基礎Ⅰ	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語の表現基礎Ⅱ	後期
	ドイツ語/フランス語/中国語入門	前後
	First Year English Ⅰ（中国文学科のみ）	前期
	First Year English Ⅱ（中国文学科のみ）	後期
2年目レベル	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語中級Ⅰ	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語中級Ⅱ	後期
	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語の表現中級Ⅰ	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語/コリア語の表現中級Ⅱ	後期
3年目レベル	ドイツ語/フランス語/中国語上級Ⅰ	前期
	ドイツ語/フランス語/中国語上級Ⅱ	後期

2)　卒業要件に指定されている選択外国語であっても、科目名が異なるものについては自由に受講できる。

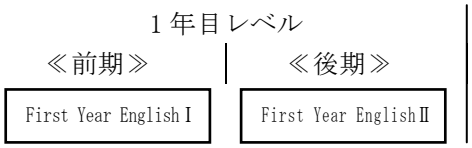
3) 選択外国語の受講にあたっては、シラバス及び下記の「選択外国語の履修図」を参照し、各自のレベルにあった内容の科目を選択すること。
4) 修得した単位は、選択必修である外国語の単位の不足を充当することは出来ないが、教養総合科目の卒業要件単位 36 単位以上のなかに算入することができる。
5) 中国文学科で教員免許状取得希望者は「First Year English Ⅰ」「First Year English Ⅱ」が必修となるので、卒業までの間にこの二つの科目を修得すること。
6) すべて（1 年目レベル～3 年目レベル）の科目は、1 年次から履修可。

◆選択外国語の履修図

【全学部】



【中国文学科のみ受講可】



◆外国人留学生の外国語科目の履修図

＊外国人留学生の外国語の履修について

1) 外国人留学生は、必修外国語〔日本語〕と、入学手続時に選択した選択必修外国語を、受講しなければならない。（各科目・半期・１単位）
2) 必修外国語〔日本語〕については、全学部・全学科とも、**6 科目 6 単位**が必修となる。
3) 選択必修外国語については、以下のとおりとする。

【日本文学科】

〔日本語〕(6 単位)・〔英語〕(6 単位)・〔ﾄﾞｲﾂ語〕(4 単位)・〔ﾌﾗﾝｽ語〕(4 単位)・〔中国語〕(4 単位)・〔ｺﾘｱ語〕(4 単位) のうちから母国語以外の言語を一つ選択し、必修とする。

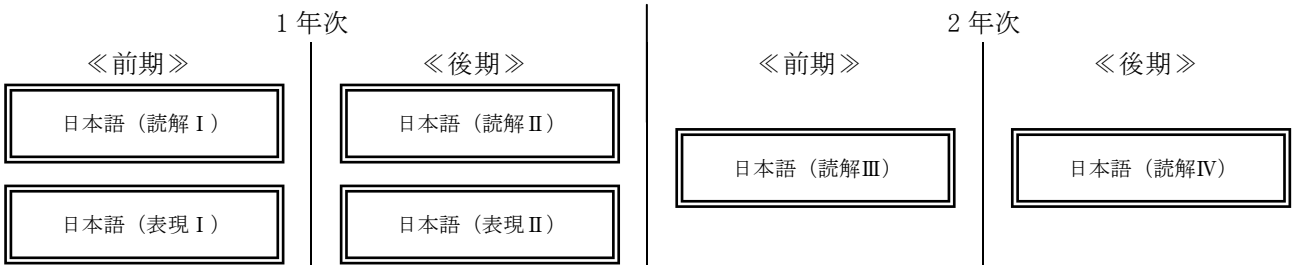
【日本文学科を除く全学部・全学科】

〔日本語〕(6 単位)・〔英語〕(6 単位) のいずれか一つを選択し、必修とする。

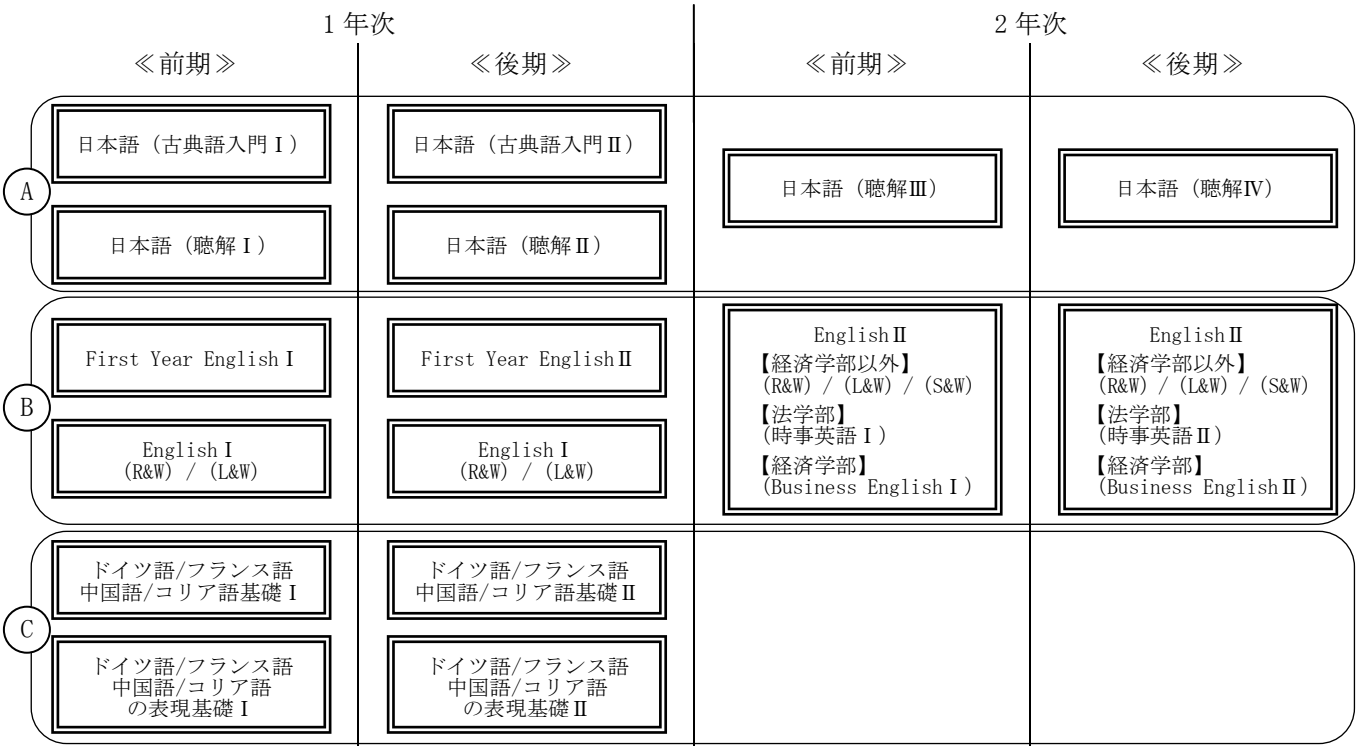
4) その他、自由に選択できる選択外国語については、前ページを参照すること。

注 1) 各学科とも入学時に選択した言語を変更することはできない。
注 2) 履修科目、方法については下記を参照すること。
注 3) 経済学部の EnglishⅡは前期に（Business EnglishⅠ)、後期に（Business EnglishⅡ）が必修になる。
注 4) 法学部の EnglishⅡは前期 に（時事英語Ⅰ)、後期に（時事英語Ⅱ）を選択できる。

【必修外国語】



【選択必修外国語】



Ⓐ…選択必修外国語を日本語とする場合。
Ⓑ…選択必修外国語を英語とする場合。
Ⓒ…選択必修外国語を〔ドイツ・フランス・中国・コリア語〕とする場合。日本文学科留学生のみ選択可能。

④基礎日本語

現代の日本において生きるために必要な日本語（国語）能力を備えるため、基礎的な日本語能力を養い、資料の調べ方、論文の読み方、レジュメの書き方、口頭発表の仕方、レポート・論文の書き方、さらには、文章表現など日本語そのものについて学ぶことを目的としている。

授業科目名	備考
基礎日本語（リテラシー）	基礎的な日本語能力を養うクラス
基礎日本語（文章表現）	わかりやすい文章作成能力を養うクラス

注 1) 開講学年は 1 年次、半期 2 単位の科目であり、重複して履修できるが、同一時期に登録できるのは 1 科目とする。
注 2) （文章表現）は、3 年次以降は登録できないものとする。
注 3) （リテラシー）は、前期については、入学時に実施した「入学時学力診断テスト（国語）」の結果により、一定の成績に満たない者は履修が義務づけられる。後期については、それ以外の者も履修できる。なお、この科目の履修は 1 年次の前期及び後期のみとする。

(3) スポーツ・身体文化科目（文学部・神道文化学部は 2 単位必修、法学部・経済学部は選択）

人間の体や精神の仕組みを理解するとともに、健康の維持に対してスポーツの果たす役割を確認し、さらにスポーツ技能を高めていく実践等を通して、生涯にわたって健康的な生活を維持していくための基礎的な能力を身につける科目である。

スポーツ・身体文化Ⅰ（必修の学部の場合）

1) 1 年次に「スポーツ・身体文化ＩA（前期）、ＩB（後期）」を履修する。（各科目・半期・1 単位）
2) 「スポーツ・身体文化ＩA・ＩB」は原則として指定の曜日時限で受講する。毎週 1 回（2 時間）前期または後期をもって 1 単位とし、単位認定の基礎条件として、各学期 10 回以上の出席が要求される。

注 1) 「スポーツ・身体文化ＩA・ＩB」の履修方法は当該年度の指示に従うこと。
注 2) 「スポーツ・身体文化ＩA・ＩB」を 1 年次に修得できなかった場合は、2 年次（ＩA は前期、ＩB は後期）に再履修することとなる。その場合の履修方法は当該年度の指示に従うこと。
注 3) 「スポーツ・身体文化ＩA・ＩB」を 2 年次終了までに修得することが進級条件のひとつとなっている学部・学科があるので、注意すること。

（選択の学部の場合）

1) 前期・後期それぞれ開講されている「スポーツ・身体文化ＩA」、「同ＩB」を履修することとなるが、文学部・神道文化学部・人間開発学部の 1 年生にクラス指定されているコマを履修することはできない。
2) 1 年から 4 年生まで、いつでも、また「スポーツ・身体文化ＩA」あるいは「スポーツ・身体文化ＩB」だけの履修でもよい。ただし、2 年次の再履修クラスでの受講はできない。
3) 選択の学部生でも、教員免許状取得希望者は「スポーツ・身体文化ＩA・ＩB」が必修となるので卒業までの間に「スポーツ・身体文化ＩA・ＩB」を修得すること。
4) 履修の詳細については、当該年度の指示に従うこと。

（コントロールクラス）

1) 「スポーツ・身体文化ＩA・ＩB」の中には、心身上の事由のため履修が困難な学生を対象とした「コントロールクラス」が設けられている。当該学生は、保健室発行の診断書を学期最初のコントロールクラス授業時に担当教員へ提出し、受講に関する指示を受けること。
2) 「スポーツ・身体文化ＩA・ＩB」の中には、年齢などの事由のため履修が困難と考えられる社会人学生を対象とした「社会人コントロールクラス」が設けられている。当該学生は、教務課へ出向き受講に関する指示を受けること。

2. 人 間 総 合 科 目 群

個々のテーマに基づく授業で、考察する過程において、さまざまな学問の手法や思考形式を具体的に提供し、学生に多角的に考える視点と学問の方法を理解・体験させる科目である。

(1) テ ー マ 別 講 義 科 目（4 科目 8 単位必修）

1) 学際的な観点から個別的・具体的に諸問題を考える中で、「ものの見方・考え方」についての多様な視点を与え、さらに発想の転換の契機を与えることを目的とし、半期 2 単位で開講される。
2) テーマ別講義科目として開設されるテーマ・授業科目は表 1 のとおりである。

表 1
テーマと授業科目

テーマ	授業科目名	単位数	備考
Ⅰ 生活と文化の理解	歴史のなかの人間	2	
	民衆文化と生活	2	
	世界の文化と生活	2	
	比較文化・比較文学	2	
	言語と文化	2	
Ⅱ 人間と社会の理解	社会のなかの人間	2	
	社会と歴史	2	
	世界の市民と社会	2	
	社会構造と市民	2	
	法学（日本国憲法）	2	
Ⅲ 心性と思想の理解	芸術と人間	2	
	思想と文化	2	
	知識と感性	2	
	言語と思想	2	
Ⅳ 人間と環境・技術の理解	地球と環境	2	
	人間と環境	2	
	人間と自然	2	
	情報の科学	2	
	人間と技術	2	
テ ー マ 外	日本事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各 2	留学生科目・留学生は必修

注） 講義題目は各年度ごとに配付される「時間割表」を参照のこと。

履修上の注意

1) これらの講義題目は、自らの興味と関心に基づいて履修し、教養総合科目の卒業要件単位 36 単位以上に算入することができる。
2) 外国人留学生は「日本事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」各 2 単位合計 6 単位を修得しなければならない。

(2) 総 合 講 座

1) 複数の教員が共通のテーマを設定して担当する科目を「総合講座」とする。
2) 総合講座は、半期 2 単位の選択科目として開講される。
3) 総合講座は、共通のテーマについて、複数の学問領域から接近することを目的とする、学際的な性格を持つ科目である。
4) 設定されるテーマは、年度ごとに異なる場合がある。

注 1) テーマが異なる場合は、複数の総合講座を履修することができる。
注 2) （ ）表記のない総合講座は、人間総合科目群に算入する。

(3) 総　合　演　習

1) 総合演習は、各学部・学科の専門教育科目の修得をふまえ、学部・学科をこえた学際的なテーマについて、より総合的かつ深く学ぶことを目的とする。

2) 総合演習、総合演習（国際交流）の2科目があり、下記のとおり履修規程が異なるので注意すること。

注1) 総合演習は、2年次開講とし、各学年1科目2単位まで履修でき、3科目6単位まで卒業単位に参入できる。ただし、テーマ・担当教員の異なるものに限る。

注2) 総合演習（国際交流）は、2年次開講とし、同一年度2科目まで履修でき、卒業単位としては4科目8単位まで参入できる。

(4) キャリアデザイン科目

1) 「生きること・働くこと」の意味、社会の変化と社会が求めている「人材」への理解、「自分発見」の重要性を学び、キャリア形成を考える際の問題提起をすることを目的とする。この科目は、学生が自由に選択して履修することができ、教養総合科目の卒業要件単位36単位以上のうちに算入することができる。

2) 「キャリアデザイン」、「インターンシップⅠ（企業・公務員）（教職）」、「インターンシップⅡ」の3科目があり、それぞれ下記のとおり履修規程が異なるので注意すること。

注1) キャリアデザインは、1年次開講とし、半期2単位とする。（　　）内が異なれば複数受講可となるが、同一内容・テーマは複数受講できない。

注2) インターンシップⅠは、半期2単位の科目とするが、4年次は受講できない。「インターンシップⅡ」は、現場で実習する講座であり、「インターンシップⅠ」を修得済または履修していることが条件となる。「インターンシップⅡ」（2・3年生開講科目で、1・4年生は受講不可）は受講にあたり、所定の手続きが必要となるので詳細はキャリアサポート課で確認すること。
※「インターンシップⅡ」は、年次別履修制限の単位外として扱われる。

3.情 報 処 理 科 目 群

(1) コンピュータ技術演習

この科目は、コンピュータ活用技術を身に付けることを目的とする。コンピュータの「方法とスキル」を修得することにより、基本的素養を身につけ、情報活用能力を自ら発展させることができるようにするものである。

授　業　科　目　名	授　業　内　容	備　　考
コンピュータ技術演習	活　用　入　門	初心者向け入門授業
	メ　デ　ィ　ア　発　信	プレゼンテーション、ホームページ作成
	デ　ー　タ　処　理	Excelを用いたデータ処理、グラフ作成
	シ　ミ　ュ　レ　ー　シ　ョ　ン	プログラミング、理論の視覚化技術

1) 半期2単位の選択科目である。
注）教員免許状取得に必要な「情報機器の操作」として充当することができる。教職希望者は必修。

2) 各自の希望により1年次から履修することができるが、「活用入門」以外の科目では、基礎的内容を授業時に行わないので、履修にあたっては注意すること。

3) **同一年度に、2演習4単位を超えて履修することはできない。**

4) コンピュータ教室では台数に限りがあるため、事前登録により受講者数制限を行う。

5) 経済学部では、専門教育科目として同内容の別科目が開講されているため、すべての「コンピュータ技術演習」科目を履修できない。

4.応　用　科　目　群

多様な外国語の履修、より高度な外国語能力や資格の獲得、留学等による実践的外国語能力の向上だけではなく、スポーツを実践的に深めるための科目群である。さらに、この科目群は多様な視点を育成するため、他大学における履修も可能にしている。学生が自由に選択し、教養総合科目の卒業要件単位 36 単位以上に算入することができる。

(1)発展言語科目

基礎科目群で履修した外国語科目を基礎として、実用性や応用力の向上をめざした科目を履修することにより、より発展的な言語能力の獲得を目指すことを目的としている。外国語科目については、すべて半期 1 単位で開講される。科目名、受講可能年次等は以下のとおり。

(1～4 年次)

授　業　科　目　名	備　　考
ロシア語基礎Ⅰ・Ⅱ	具体的な内容についてはシラバスを参照
ロシア語中級Ⅰ・Ⅱ	
スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ	
スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ	
ポルトガル語基礎Ⅰ・Ⅱ	
ポルトガル語中級Ⅰ・Ⅱ	
イタリア語基礎Ⅰ・Ⅱ	
イタリア語中級Ⅰ・Ⅱ	

(1～4 年次共通)

授　業　科　目　名		備　　考
Basic English	英語リテラシー	英語の初歩を学び直すクラス
	はじめての英語①・②	英語未修の外国人留学生のみ対象

注 1)　「英語リテラシー」の開講学年は 1 年次、半期 1 単位の科目である。「はじめての英語」は、1～4 年次に履修できる。

注 2)　「英語リテラシー」は、前期については、入学時に実施した「入学時学力診断テスト(英語)」の結果により、一定の成績に満たない者は履修が義務づけられる。後期については、それ以外の者も履修できる。なお、この科目の履修は 1 年次の前期及び後期のみとする。

(1～4 年次共通)

授業科目名		備　　考
Advanced English	資格英語	担当者により難易度が異なるため、シラバスで要確認
	コミュニケーション	英語でのコミュニケーション方法を学ぶクラス
	国際コミュニケーション	選抜試験あり。海外留学を準備する人にも適当なコース

注)　開講学年は 1 年次、半期 1 単位の科目である。「資格英語」「コミュニケーション」「国際コミュニケーション」は、1 年次～4 年次まで毎年履修することができ、受講数に制限はない。

(1～4 年次共通)

授　業　科　目　名	備　　考
資格ドイツ語/フランス語/中国語	具体的な内容についてはシラバス参照

注)　半期 1 単位の科目で、1 年次から 4 年次にわたって毎年履修でき、受講数に上限はない。同一時期に受講できるのは 1 科目までとする。

（1～4 年次共通）

授業科目	留　学　先	単位数	備　　考
留学英語	マニトバ大学 モナシュ大学 セント・マイケルズ・カレッジ	各 2 単位	それぞれの大学で短期留学に参加し、単位の認定を希望する者は、決められた時期にこの科目の登録を申し出なければならない。なお、本学において指導は行うが、授業は行わない。
留学中国語	南開大學 復旦大學	各 2 単位	

注 1)　留学先が異なれば、留学には複数回参加できる。

注 2)　「留学英語」および「留学中国語」として、単位が認定されるのは同一言語内において 2 科目 4 単位までである。

（1～4 年次）

授　業　科　目　名		備　　考
Advanced English	上級英語	英語応用能力を高めるためのクラス

注）　半期 1 単位の科目で、1～4 年次にわたって毎年履修することができ、受講数に上限はない。同一科目であっても重複して受講できる。

(2)発展スポーツ・身体文化科目

スポーツ・身体文化Ⅱは、科学的および文化的側面から、スポーツや健康・体力に関する各人の興味と関心とを実践的に、より深く掘り下げることを目的とする選択科目（応用発展科目）である。2 年次以降に履修することができる。毎週 1 回（2 時間）前期または後期をもって 1 単位とし、単位認定の基礎条件として、10 回以上の出席が要求される。

注 1)　スポーツ・身体文化Ⅱは同じ種目であっても複数受講できる。
ただし、卒業に要する単位に算入できるのは 8 科目 8 単位までとする。

(3)単位認定科目

1）TOEIC・TOEFL の単位認定

TOEIC・TOEFL において所定の成績を修めた者は、以下の科目の単位を認定する。

検定・資格	認定科目名	単位数	評価
TOEIC 500 点以上または TOEFL 50 点以上(iBT)または TOEFL463 点以上(ITP)を取得	英語検定試験（中級）	2 単位	N（認定）
TOEIC 650 点以上または TOEFL 70 点以上（iBT)または TOEFL523 点以上(ITP)を取得	英語検定試験（上級）	2 単位	N（認定）

注 1)上記 2 科目の単位を希望する者は、前期・後期履修登録期間に教務課に公式認定証とそのコピーを持参し、コピーを教務課に提出すること。

注 2)上記 2 科目は、それぞれ単位取得できるのは、1 回のみである。

注 3)上記 2 科目のうち、「英語検定試験（上級）」の認定基準を満たしている者は「英語検定試験（中級）」の認定基準も満たしていることになるので同時に 2 科目 4 単位が認定される。ただし、すでに「英語検定試験（中級）」の単位を修得済の者は、重複して取得することは出来ない。

2）単位互換制度によって修得した単位は 12 単位までを教養総合科目の卒業要件単位 36 単位以上のうちに算入することができる。